

みちの始まりである真性寺前では日々多くの
人々の往来がある。その多くの人々の流れを
スムーズにさせるためにも十分なスペースを
取り、ベンチを配置し、ゆったりとした滞留
空間を生み出す。

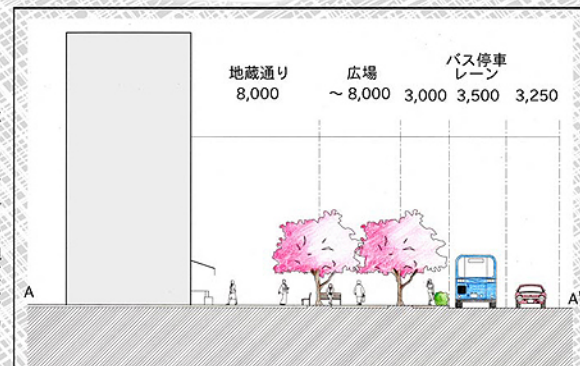
巣てきでいい鴨研究会
代表 中橋英雄



● 地蔵通り入り口部分イメージ

広場の断面構成

現在白山通りとして使用されている部分(8m)は道路拡幅後は白山通りの歩道と一体とし、車を完全にシャットアウトした、歩行者が安心してにぎわえる空間として整備する。広い歩道の半分は歩行者が商店街に入っていやすいように何も配置せず、白山通り側の半分は参詣客が休んだり緑日の露天を出せるような広場をサクラ並木を軸に創出する。

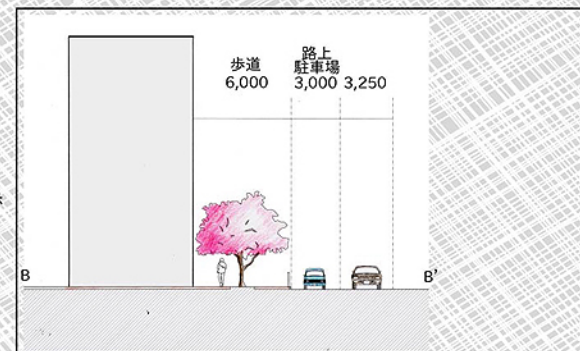


● 入り口部分断面図 (A-A')

S=1:150

白山通りの断面構成

入り口部分から高岩寺手前までの車道には路上駐車施設を設置する。これにより17台程度の駐車施設が整備可能である。白山通りが裏のままでい続けてほしいと考えている地域の人々にとって、8mの歩道にするよりは、そのうち2mは巣鴨に来るお客さんのための駐車場にするほうが有効な活用方法だと考えた。



● 白山通り断面図 (B-B')

S=1:150

空間整備のポイント

◎ポイント①(中仙道の線形について)

旧中仙道の線形上にサクラ(ソメイヨシノ)を列植して、古くからの街道(みち)の形を強調する。また、みちの基点としての象徴である商店街のアーチを残した形で空間の整備を行う。地蔵通りへ入る車は広場先から左折気味に進入できるようにする。

◎ポイント②(観光バスの停車対策)

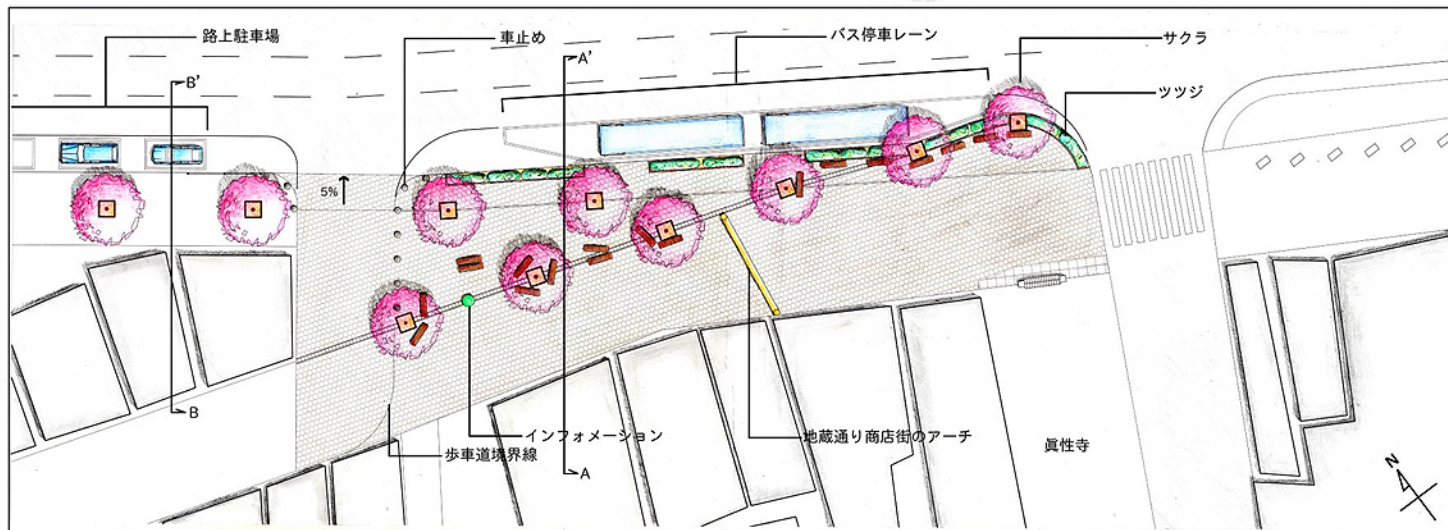
バスが2台停車できるバス停車レーンを設けて、参詣客が参道の入り口からお参りでき、回遊性のある参詣空間をつくる。

◎ポイント③(広場とインフォメーション)

広く取った歩道上にサクラを軸として来訪者が滞留できるような広場を確保する。広場の中心には高岩寺の方向や商店街の情報などがわかるインフォメーションボックスを設置する。

◎ポイント④(歩行者の白山通り横断対策)

歩道橋が撤去されるが、都営三田線に親切されるエスカレーターにより白山通りの横断が可能になることから新たな歩道橋、横断歩道の新設は行わないで交通の混雑に配慮する。



● 地蔵通り入り口部分平面図

S=1:200

0m 2m 5m 10m 25m 50m